

# NKオンリーワン通信

VOL.15

発行：新潟北高等学校

22120915

昨年度から取り組んでいる  
オンリーワンスクール推進事業は  
「県立幼稚園等との交流（小・中も含め）」と「**大学等との  
連携**」を二本柱として推進しているが、今回は大学等との連携の  
一環として



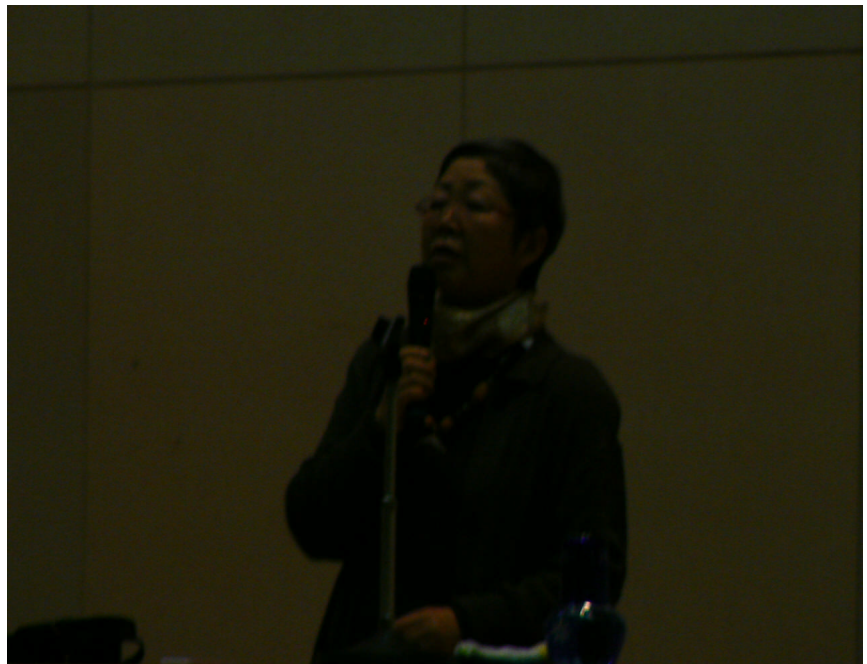
敬和学園大学国際文化学科教授の神田より子先生をお招きし、ご講演をいただいた。  
今号はその内容について皆さんにご紹介したい。

## 「実感、異文化体験 異文化の向こうに見えるもの ～国際的視野を持つことの大切さ～」 12月8日

先生には上記のテーマ  
で今回のご講演を依頼さ  
せていただいた。

前々日に私の手元に先  
生からの資料が届き、そ  
の中味に目を凝らすと、  
「文化相対主義」とか「リス  
ペクタビリティ(倫理規範)」  
だとか、聞いたこともな  
いような文言がならび、  
ウ～ン、本校生には、い  
や、私たち大人にとっ  
ても難しい内容だなあ  
と考

えていた。  
さて、講演会当日。



先生はのっけから「隣の人と握手してみましょう。」と話された。いったい握手することが「**異文化**」や「**国際的視点**」とどのような関係性があるのだろうと、先生の話の聞いていると次々に「それではハグできますか?」「チューできますか?」と次々にたたみかける。そして先生は、オリンピックでの女子ソフトボールチームの表彰式でのシーンを例にとり、「日本人は肌と肌を合わせるあいさつはできない。普段、自分たちが当たり前でないことに会ったときにどうするか?」と。また、ご自分のゼミの学生から「トイレに入っすぐに水を流す」行為は異文化だと。「そう、異文化とは異なる国のことだけではなく、こんなにも皆さんの身近にあるのです。そしてそのことに気づくことが大切で、何かに興味を持ち、意識的に自覚することが国際的視野を持つ第一歩なのです」と。



そうか、そうだったのか、と納得したのも束の間。女性の立ち入り禁止（女人禁制）を取り上げ、世界遺産に登録されている大峰山での修験道の修行を中心に話され、「『文化』の見方は、内側から見るか、外から見るかで大きく異なる。その両方から見るのが大切。」であると。さらに、「正しい」とはどういうことか、これは人と自分との関係性で決まってくるなどと話され、相対的な見方をするよう促す。しかし、それを突き詰めていくと「どんな事柄でもあなたの文化なのだから認めますよ」となってしまう。なるほど～などと思っていると、北アフリカでの女子の割礼やインドの慣習であるサテイの話から、私たちの

身近なDVの話におよび、「その国の伝統だからとか、家庭の問題だからとか思わず、『文化の相対的意味論の分析』すなわち、身近な異文化の暴力に目を開けて声を出す。これは変だよ、これは変だねと興味を持ち声にだしていき姿勢が若者には大切だ。」と。そして結びに、「『**国際的視野を持つ**』とは、他者を見ることによって自分自身を知る。」ことであると。



あっという間の1時間であり、生徒も多くのことに気づかされたであろう貴重な時間であった。そしてもっともっと先生のお話をうかがいたいと思ったのは私一人ではあるまい。今回本校生のためにお忙しい中時間を割いてご講演いただいた神田先生に感謝申し上げますとともに、今後のご活躍を願って止まない。「本当にありがとうございました<(\_ \_)>」

**この広報は、新潟北高等学校ホームページ**

**[http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top\\_gakkou.html](http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top_gakkou.html)にも掲載しています。**